

期中の評価個表

事業名	民有林直轄治山事業	事業計画期間	昭和35年度～平成21年度
事業実施地区 (都道府県名)	鬼怒川(きぬがわ) 栃木県	事業実施主体	関東森林管理局 日光森林管理署
事業の概要・目的	<p>男体山は、火山性荒廃地で脆弱な地質と急峻な地形のため、山頂から放射状に大規模な侵食谷が発達している。降雨時には土石流の発生により、下流に甚大な被害を与えてきた。</p> <p>山頂から麓まで続く長大な崩壊地の復旧と渓流に大量に堆積する不安定な土砂の固定、流出防止を図るには、大規模で継続的な治山対策が必要なことから、地元住民及び栃木県からの強い要請も踏まえ、昭和35年度から民有林直轄治山事業として、本事業に着手した。その後、大規模な災害の発生に応じ、事業内容を見直しつつ、現在に至っている。</p> <p>主な事業内容： 溪間工 305基 山腹工 87ha</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>本事業の採択当時においては事業評価制度が導入されておらず費用対効果分析を行っていないが、現時点における費用対効果分析結果は以下のとおりである。</p> <p>総費用(C) 24,611,182 千円 総便益(B) 124,958,184 千円 分析結果(B/C) 5.08</p>		
森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化	<p>地質は溶岩と火山砕屑物の互層部及びこれらを覆うスコリアで構成され、侵食に非常に弱く、侵食された土砂は降雨の都度、下流に流出している。下流域には世界遺産(1999年12月登録)の日光東照宮等の社寺がある。近年、日光市一円はニホンジカによる食害が発生している。</p> <p>保全対象： 家屋 1,070戸、国道11km</p>		
事業の進捗状況	<p>侵食谷については、溪間工により、溪床の維持と固定を図り、山腹崩壊地については、斜面を安定させるため土留工等を実施し、草・木本類による植生の導入を図り表面侵食を防止する。平成15年度までの事業の進捗率は87%(事業費)の見込みである。</p>		
関連事業の整備状況	<p>当地区下流域及び隣接地において、治山事業(栃木県)及び直轄砂防事業(国土交通省)が実施されており、連絡調整会議等により、連携、調整を図っており、効果的・効率的な事業実施に努めている。</p>		
地元(受益者、地方公共団体等)の意向	<p>男体山の直轄治山事業エリアは本県にとって特に重要な保全対象を有しており、国土交通省の砂防事業及び栃木県の治山事業と施工地が隣接していることから、関係機関と十分協議の上、工種・工法等で自然環境に配慮した事業の執行を図られたい。(栃木県)</p>		
事業コスト縮減等の可能性	<p>間伐材を利用した残置式型枠の採用によりコスト縮減を図るとともに、環境にも配慮している。今後ともコストの縮減、環境にも配慮した工法を実施することとしている。</p>		
代替案の実現可能性	<p>該当なし</p>		
第三者委員会の意見	<p>流域の保全のため、事業の継続実施が妥当と考える。これからの事業実施にあたっては、将来の安定した植生を考慮した森林の整備を図る必要がある。また、復旧状況等、治山対策の施工効果を確認しつつ事業を実施することが必要。</p>		
評価結果及び実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 未施工地の山腹崩壊地及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、事業の継続が必要である。 ・有効性： 事業の実施により、崩壊地の復旧や溪床に堆積する土砂の安定など下流域の保全等が図られることから、事業の有効性は認められる。 ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、事業実施に当たってもコストの縮減に努めていることから、効率性は認められる。 <p>上記からの各項目及び各観点からの評価、並びに第三者委員会の意見を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、事業の継続実施が妥当と判断される。</p> <p>・実施方針： 継続</p>		